

ロシア・NIS委員会

2007年度 ロシア極東ミッション

2007年9月17～21日／ハバロフスク、ウラジオストク

Keizaidoyu Express

ロシア・NIS委員会は「ロシア極東の動向把握と今後の日ロ経済関係」を基本テーマとして、9月17～21日の日程でハバロフスクとウラジオストクにミッションを派遣した。ミッションは、多田博副委員長（三井物産 取締役副社長執行役員）を団長に、団員8名（随行員等14名）で構成。ハバロフスクでは第2回極東国際経済フォーラムに参加、ウラジオストクでは知事らとの面談、視察を行った。

今回が2回目となる極東国際経済フォーラムのテーマは、「シベリアと極東の発展を通じて国の現代化へ」。ロシアからは地元や周辺極東地域を中心に約750名、日米中韓などからは約130名が参加した。海外からの参加者では日本が約50名と最多であった。フォーラムでは、連邦政府の東シベリアと極東重視への政策転換と、それに対する地元官民関係者の意欲的な姿勢が強調された。一方、課題としては、人口・労働力減少、輸送物流問題、海外資本の誘致に消極的なロシアの姿勢などが指摘された。

ウラジオストクでは、長谷川次席領事、ゴルチャコフ沿海地方議会議長らとの面談、各種施設・企業の訪問を通じて、極東沿海地域の現状と課題、今後の見通しの把握に努めた。

ミッションの概要は次の通り。



第2回極東国際経済フォーラム会場前での団員一同（ハバロフスク、9月18日）



ゴルチャコフ沿海地方議会議長と面談（ウラジオストク、9月19日）

ロシア極東ミッション日程

| 月日 | 時刻 | 活動内容 |
|----------|-------|---|
| 9月17日(月) | 午後 | 東京から新潟へ移動 |
| | 17:40 | 新潟発、ハバロフスクへ |
| | 21:50 | ハバロフスク着 |
| 9月18日(火) | 10:00 | 第2回極東国際経済フォーラム |
| | 13:30 | レヴィンターリ・ハバロフスク州副知事主催昼食会 |
| | 18:30 | フォーラム終了 |
| | 20:00 | 貝谷俊男総領事主催夕食会 |
| 9月19日(水) | 08:50 | ハバロフスク発、ウラジオストクへ |
| | 10:40 | ウラジオストク着 |
| | 14:00 | 長谷川朋範次席領事等からブリーフィング |
| | 16:00 | ゴルチャコフ沿海地方議会議長と面談 |
| | 17:00 | 日本センター訪問 |
| 9月20日(木) | 10:00 | ウラジオストク港湾運営会社訪問 |
| | 14:30 | 極東電力訪問 |
| | 15:30 | 海運会社FESCO訪問 |
| | 18:30 | 日野ウラジオストク 建機他修理工場訪問 <small>*日野自動車と関係はなし</small> |
| 9月21日(金) | 19:30 | 長谷川朋範次席領事主催夕食会 |
| | 10:00 | 2012年APEC開催予定地ルスキー島訪問 |
| | 13:30 | 大型スーパー見学 |
| | 16:20 | ウラジオストク発、ソウル経由、成田へ |
| | 20:50 | 成田着 |

ロシア極東ミッションのポイント

■ハバロフスク

1. 東シベリアと極東地方重視への政策転換と課題

第2回極東国際経済フォーラムでは、連邦政府の東シベリアと極東重視への政策転換とそれに対する地元官民関係者の積極的意欲が強調された。連邦政府は8月に「極東ザバイカル発展連邦目的プログラム」を策定し、輸送インフラ、エネルギー開発等に総額5660億ルーブル（約2兆6000億円）を予算計上することになっている。地元側は、資源エネルギー開発だけでなく、航空機等の高付加価値製造業が発展していることを強調した。今後の課題としては、人口・労働力減少への対応がある。ロシア全体でも人口減少は大問題だが、東部においてはとりわけ深刻であることが指摘された。

2. アジア諸国との関係強化

フォーラムにおいてロシア側は、今後はグローバル市場の中での分業関係に積極的に関与すべきこと、特にアジア近隣諸国との関係強化が鍵であることを強調した。近年、近隣諸国との通商は急増しているが、今後は、鉄道輸送近代化や太平洋パイプライン建設等の具体的な大規模プロジェクトも計画されている。

■ウラジオストク

3. 2012年のAPEC開催と開発の加速化

ゴルチャコフ沿海地方議会議長をはじめとした面談者は、ウラジオストクでの2012年APEC開催の決定を契機にして沿海地方や極東での開発を加速しよう

との姿勢を示した。急成長するアジア近隣諸国との関係強化が当地域の発展にとって重要なことに加え、港湾やシベリア鉄道の起点としてのメリットを活かして、ロシアの中で発展する欧州部とアジアとのゲートウェーとして発展を図りたいとの戦略がうかがえる。

4. ゲートウェー化と輸送物流の整備

ゴルチャコフ議長は、主要3港（ウラジオストク、ナホトカ、ポストチヌイ）を中心とした輸送物流の整備を、ゲートウェーとして発展を図る上での重要点とした。また同時に、極東の石油ガス・パイプラインのウラジオストクまでの建設の重要性も指摘した。

5. 経済成長の極東への波及と市場経済化、企業経営者の成長

当地での平均月収は5万～7万円とのことだが、実際の所得水準はそれ以上であると思われる。背景としては、ロシア欧州部からの資金流入等があると考えられる。また、市場経済化とそれを担う企業経営者は着実に育っている。今回面談した海運会社社長らは若く有能で、グローバル経済の中での国際競争力強化との視点で経営戦略を策定していた。



シベリア鉄道の起点、ウラジオストク駅。

極東ロシアの重要な港、ウラジオストク港。



団員名簿（敬称略・役職はミッション開催当時）

団長

多田 博 （ロシア・NIS委員会 副委員長／三井物産 取締役副社長執行役員）

団員

辻本 博圭 （ロシア・NIS委員会 副委員長／近鉄エクスプレス 取締役社長）

縄野 克彦 （ロシア・NIS委員会 副委員長／日本航空 取締役副社長）

牛久保 雅美 （サンデン 取締役会長）

鈴木 登夫 （日立物流 執行役社長兼取締役）

千葉 清一 （みずほコーポレート銀行 常務執行役員）

中村 雅信 （BNPパリバ・ジャパン 取締役社長）

廣瀬 修 （サーベラス ジャパン 経営諮問会議 副会長）